

# 令和7年度 学生チャレンジプロジェクト 成果報告書

事業区分 企業連携

プロジェクト名 若手女性起業家支援プロジェクト

代表者 (所属・学年・氏名) 現代マネジメント学部3年 沖永妃菜

責任教員名 (役職・氏名) 現代マネジメント学部 学部長 植林茂

予算総額 65千円

## 1. プロジェクトメンバー (氏名・学部・学年・役割)

プロジェクトリーダー

現代マネジメント学部 3年 沖永妃菜  
同上 加藤帆華  
同上 井波蘭  
同上 渡邊彩花

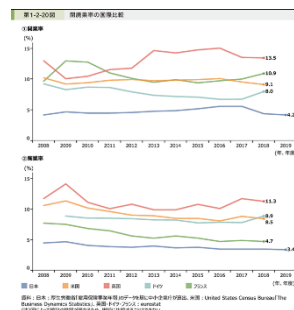
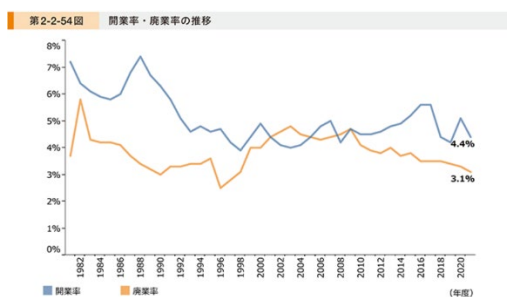
プロジェクト役員

現代マネジメント学部 3年 岩島凜  
同上 尾竹咲妃  
同上 小野李緒華  
同上 川地里奈  
同上 三浦奈津子  
同上 脇澤里奈

## 2. プロジェクト開始の背景・経緯や目的等

<背景・経緯>

本プロジェクトは、日本における起業活動の停滞という社会的課題を背景として開始された。日本では、2000年頃を境に開業率と廃業率の関係が変化し、それまで開業率が廃業率を上回っていた状況から、両者の差が縮小する傾向が見られるようになった。また、諸外国と比較すると、日本の開業率・廃業率はいずれも低い水準にあることが指摘されている。これは新規参入が少なく、市場の新陳代謝が進みにくい状況であることを意味しており、日本経済の活力低下につながる可能性がある。



このような状況が続く場合、主に二つの問題が生じると考えられる。一つは国際競争力の低下である。企業が安定を優先しリスクを取らなくなることで、新しい事業やイノベーションが生まれにくくなり、国際市場での競争力を失う可能性がある。もう一つは市場の新陳代謝の停滞である。競争が活性化しないことによって既存企業が市場を占有しやすくなり、効率性の低い企業が残ることで経済全体の生産性低下につながる可能性がある。

これらの課題を踏まえ、日本経済の活性化のためには、新たな挑戦を行うスタートアップ企業の存

在が重要であると考えた。しかし既存の大企業のみでは急激な変革を生み出すことは難しく、新たな視点や発想を持つ若い世代の挑戦が求められている。

特に日本では女性起業家の割合がまだ十分に高いとは言えず、女性が起業に挑戦する機会やロールモデルも限られている。そこで、女子大学に在籍する学生である私たちが主体となり、女性起業家を志す人々を支援する活動を行うことで、女性起業家の増加に貢献できるのではないかと考えた。

以上の問題意識から、「若手女性起業家支援プロジェクト」を立ち上げた。本プロジェクトの目的は、女性起業家のロールモデルとの接点を作ることや、起業を志す人がアイデアを形にする機会を提供することを通じて、女性の起業意欲を高めることである。また、学生が主体となって社会課題に対して行動することで、地域や社会に対する新たな価値創出を目指すことも本プロジェクトの重要な目的の一つである。

### 3. プロジェクトの成果及び達成状況

本プロジェクトでは、女性起業家の増加を促すことを目的として、大きく二つの施策を実施した。

#### 【女性起業家による講演会】

第一の施策として、有名女性起業家による講演会を開催した。講師として登壇いただいたのは、株式会社 muse 代表取締役の勝友美氏である。勝氏は 2013 年に自身の会社を設立し、女性向けスーツブランドを立ち上げ、女性初のテーラーとしてパリコレクションに出展するなど、女性の新たな市場を切り拓いてきた起業家である。また、近年は化粧品事業にも参入するなど、多方面で事業を展開している人物である。

講演会の実現にあたっては、メールやオンラインツールを用いたアポイントメントを行い、出演依頼を実施した。通常約 50 万円とされる講演費用に対して、学生主体のプロジェクトであることや本企画の目的を丁寧に説明し、最終的に 5 万 5 千円で講演を引き受けていただくことができた。

また、広報活動としてゼミの Instagram アカウントを開設し、継続的な情報発信を行った。さらにメンバー個人の SNS による発信やポスター掲示を行い、近隣大学を含む計 10 大学に周知を行った。

講演会はオンライン形式で開催し、起業のきっかけや経営の経験、価値観、学生へのメッセージなどについて講演とディスカッションを行った。



#### 【ビジネスプランコンテスト】

第二の施策として、女性を対象としたビジネスプランコンテストを開催した。

参加対象は、名古屋市在住または名古屋市で起業を希望する大学生から 40 歳までの女性とし、プラン内容は自由とした。また、受賞者には名古屋市信用保証協会への紹介を行い、実際の起業支援につながる可能性を提供する仕組みを整えた。

コンテストでは、参加者が自身のオリジナルビジネスプランを発表し、審査員による質疑応答を行う形式とした。審査は名古屋市信用保証協会の実務家 3 名とゼミ生 3 名で行い、評価基準として

- ・アイデアの独創性
- ・実現可能性
- ・社会的意義

の三点を設定した。

#### <プロジェクトの成果及び達成状況>

本プロジェクトでは、講演会とビジネスプランコンテストを通じて、女性の起業意識を高める機会を提供することができた。

講演会はオンライン形式で実施され、本学学生を中心に約 40 名が参加した。講演では、起業に至る

までの過程や困難の乗り越え方、起業家としての価値観など、実体験に基づく話を聞くことができた。参加者にとって、起業というキャリアを具体的にイメージする貴重な機会となったと考えられる。

ビジネスプランコンテストには、大学3・4年生の計5組が出場した。各チームが10分間のプレゼンテーションと5分間の質疑応答を行い、合計約2時間半にわたって審査が行われた。

審査の結果、2チームが最優秀賞に選出された。一つ目は、AIを活用した自炊支援アプリを提案した「My Healthy」である。このプランはターゲットを学生に設定し、既存のレシピアプリとの差別化や実現可能性を具体的に示した点が評価された。

二つ目は、大学内にジムを設立するというアイデアを提案した「Nutri×Move」である。自身のダイエット経験をもとに健康と運動を組み合わせたサービスを提案しており、社会課題への着目と独創性が高く評価された。

これらの取り組みを通じて、起業アイデアを社会に発信する場を創出できたこと、さらに実際の支援機関との接点を作ることができた点は、本プロジェクトの大きな成果であるといえる。



#### 4. 大学や地域・社会へ与えた影響

本プロジェクトは、大学内だけでなく地域社会にも一定の影響を与えたと考えられる。

まず大学に対しては、学生が主体となって社会課題に取り組む実践的な学習機会を創出した点が大きな意義である。企画立案から広報、運営までを学生自身が担うことで、主体性やプロジェクトマネジメント力を実践的に身につけることができた。また、講演会やコンテストを通じて、学生が起業というキャリアについて考える機会を提供することができた。

地域社会への影響としては、名古屋市信用保証協会との連携により、学生のビジネスアイデアを実際の起業支援につなげる仕組みを構築できた点が挙げられる。これにより、地域における新たなビジネス創出の可能性を広げることができた。

さらに社会的な観点では、女性起業家のロールモデルを紹介し、女性が起業に挑戦することへの心理的ハードルを下げる効果があったと考えられる。女性が社会で活躍する機会を広げる取り組みとしても意義のある活動であった。



#### 5. 今後の課題

本プロジェクトを通じて一定の成果を得ることができた一方で、いくつかの課題も明らかになった。第一に、参加者の拡大である。講演会やコンテストの参加者は一定数集まったものの、より多くの学

生や社会人に参加してもらうためには、広報方法の改善や他大学との連携強化が必要である。

第二に、起業支援の継続性である。今回のコンテストでは支援機関との連携を行ったが、実際に起業に至るまでの継続的なサポート体制は十分とは言えない。今後はメンタリングや起業支援プログラムなど、より長期的な支援の仕組みを構築することが求められる。

第三に、プロジェクトの持続性である。本プロジェクトは学生主体の活動であるため、メンバーの卒業によって活動が途切れる可能性がある。今後は後輩への引き継ぎや組織体制の整備を行い、継続的な取り組みとして発展させていく必要がある。

以上の課題を踏まえ、今後はより多くの人々を巻き込みながら、女性起業家を支援する取り組みを発展させていくことが重要である。